

第 223 号

# ほほえみの会

2021.7.11

## <ほほえみの会 WEB 総会>

コロナ禍により活動を休止している「ほほえみの会」は WEB 総会を開催し、24人が参加しました。

2年ぶりの総会では 2019 年度、2020 年度の活動及び会計の状況報告をいたしました。ただ、監査も受けておらず、また役員改選も行いませんでした。通常の総会ができるまでは現状体制を維持して会の運営を続けることにします。

総会ではまず「こども病院の最近の動き」について血液腫瘍科の渡辺科長からお話を伺いました。

静岡県立こども病院は全国に 15 ある小児がん拠点病院に指定され、拠点機能の向上に取り組んでいる。開設された小児がん相談室は利用者が急増していることや病棟での環境整備、また放射線機器の更新などが報告されました。

具体的には、病棟では無菌室を含めたクリーン度の高いエリアが作られ、AYA ラウンジスペースも新設してオンライン環境を整えたこと、また放射線装置の更新とともに、病棟入り口から壁に絵を描いて海中を進んで、海から森に進んで治療を受けられるようにして、放射線を受ける暗いイメージを一新したことなどが報告されました。

続いて、川口先生から「血液腫瘍領域における最新医療」についてお話を伺いました。

これまでのがん治療は、手術、放射線、抗がん剤でいずれも正常な細胞も攻撃して副作用が出るものだったが、最近は免疫療法も進んでいる。これは人間本来の免疫細胞を強めてがん細胞をやっつけるもので、急性リンパ性白血病の CAR-T 細胞療法ではこれまで治らなかったものの 8 割近くが治るようになった。また、がんゲノム療法も進んでいて、がん遺伝子を検査して治療に反映させるもので、標準治療終了後や原発不明、希少がんを対象として行われ、有効であることなどが報告されました。

そして、「コロナ禍での入院児の変化」についてチャイルドライフスペシャリスト (CLS) の作田さんからお話をいただきました。

コロナによる病棟の面会制限はこのところ緩めている。当初は子供たちにも動揺や戸惑い、混乱があった。外泊ができないとか、ママが来てくれないなどストレスが増加して泣く姿も見られた。家族の方も子供のサポートができない。感染源にならないか。兄弟が孤立感など過剰な反応や誤解が生じた。CLS としては子供たちの気持ちの受け入れをして、自己肯定感の UP に努めた。子供たちの可能性を信じて活動しているとのことでした。

参加者からの質問で、「コロナワクチン接種」について、12 歳以上はワクチン接種ができ、こども病院では9月から接種を行う予定。ただ、今供給が滞っている状況もある。接種券があればこども病院でも打てるが、時間がかかる見込みでまずは地元で打ってほしい。接種についての相談に乗る。

「コロナの今後の見通し」については、海外では接種が進んだとことでは通常の生活に戻っている。日本でも半年から1年で戻るのではないかと思うが、変異株が進むとわからない。また、「子供が大きくなって成人科への移行が必要になるが、治療のサマリなど持たせたい」については、こども病院にフォローアップ外来があるので相談をしてほしい。

さらに、「マクドナルドハウスができる」と新聞に載っていたがどうか、の質問に対しては病院もよくわからないが、現在の宿泊施設コアラの家の老朽化が進んでいて大変ありがたいお話。ただ、建物ができても運営はボランティアになり、皆さんの協力が必要となるのでよろしく願いしたい。とのことでした。